



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2025年10月06日 第1237「週刊五十嵐レポート」

偏差値

「優良企業とゾンビ企業(中小企業の分かれ道)」(水野由香里/光文社新書)を読んだ。

中小企業と一言と言っても多種多様であり、中小企業経営の特徴はばらつきが大きいことである。一言で言い表すことが難しい。中小企業を正規分布図で表すと、業績が良い偏差値の高い層と業績が悪い偏差値の低い層、真ん中あたりの業績が偏差値48から52の平均値に近いボリュームゾーンが存在する。

偏差値40以下の中小企業には「ゾンビ企業」が多く含まれている。ゾンビ企業とは、経営破綻しているにもかかわらず、金融機関や政府系機関などの支援によって存続している企業を指す。一方、偏差値55以上の中小企業は優良企業と位置付けている。

偏差値が低い企業の特徴は、1. 他社依存。特定大企業の取引に依存し、生殺与奪権を取られている。2. 戦略の欠如。経営者の無知。戦略を持たず、発注企業の意向に流されるまま赤字の業務を受注する。経営者の無知が業績悪化をもたらす。3. 競争力の欠如。強いものがない。取引先から見捨てられる。4. 業務の喪失。変化に対して脆弱。5. 非効率。生産性度外視することが頻繁にある。

偏差値の低い企業でも偏差値の高い企業に生まれ変わることは可能であると書かれている。経営者が一念発起(あることを成し遂げようと決心すること)して、経営の勉強を進め、企業がそのものが変わっていった事例は多々ある。(経営者の無知。つまり、経営の勉強をしていなかった。経営を勉強すると変わるということ)

では、偏差値の高い企業の特徴は、「覚悟・気概」、「考え方・方針」、「戦略・戦術」、「行動指針」、「危機感」、「従業員への配慮」。

こうして見ると、社長の仕事は、最高の「知的ビジネス」である。偏差値というと、中学・高校時代を思い出す。企業の偏差値とは社長の偏差値である。

ちょっと
気になる出来事

9月30日～10月3日、日経新聞に「東京一極集中の実相」が特集。

東京都の人口増加が続いている。8月の推計人口は1426万人で、転入が転出を上回る社会増で過去最多を更新。東京にヒト・モノ・カネが集まる現状を「一極集中」と批判されている。

なぜここまでの人口集積が可能になったのか。理由の一つが、企業の生産性の高さ。金融、不動産、情報通信など労働生産性が高い産業が集まる。賃金や生産性の上昇が人や企業を引きつける。

東京都の人口は2020年までの30年間で約220万人増えた。内訳は9割が高齢者。子育て世代が他県に転出する一方、介護が必要となる高齢者の都内志向が強まる。2024年に都内の人口は約9万人増えた。そのうち8割が外国人。外国人の就労先で最も多い業種は宿泊業、飲食サービス業。飲食業の有効求人倍率は約5倍(全体1.51倍)。介護の有効求人倍率は約9倍強。外国人が人手不足の穴埋めをしている。外国人なしでは東京の経済成長が考えられない。政治では外国人対策が議論になっている。

流れは止まらない。この中からビジネスの種子を見つける。



一口メモ
知識

人に仕えるということ その3

上司に仕えて犯しやすい過ちが3種あるな。
言うべき時でないのに言うのが悪乗り。
言うべき時なのに言わないのが乗り遅れ。
上司の反応を無視して発言するのが暴走だ。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

